

バイオテクノロジー標準化

ISO CEN ASTM ANSI

DIN BIS AFNOR SABS その他

横断的な方向ではどの項目でもバイオテクノロジーの要素を含んでいます。

このような領域の中で、文科省領域の規格化を覗いてみたいと思います。 科学技術関係は山ほど規格があると思いますので、ここでは元の文部省関係に絞ってみます。

文部省関係の規格というと、教室の机の規格しか考えないのが普通だと思いますが、教育にはいろいろと規格的なものが含まれて居ます。 最近流行の e—Learning に関しては議論が結構ありますが、従来の小学校、中学校、高等学校ともに教育内容の指定、評価方法、教師の資格については、こまごまとしています。尤もこれらを規格とは思っていないかもしれませんが・・・。 しかし、これらは規格なのです。 ただし、見直しの時期、具体的方法がその他の規格ほど明確ではありません。

これが大学になるともっといい加減になります。 学士、修士、博士などの称号とその必要事項などが明確になっていません。 もちろんこれを規定する法律は存在するのです。 そのあたりの勉強もせず、身の回りの聞きかじり知識だけでいろいろの処理を行っている教授たちが沢山居るようです。 このような状況の下で育った博士はその立場が理解できないので、社会的に役に立たない博士になってしまうようです。

また、博士論文はその国の最高の学術出版物のはずですし、公開を義務付けられているのですが、外部の人がこれを読み、複写するのは極めて難しいのです。 時には個人情報保護の理由で断られてしまうこともあるのです。 このような状況を基にして、博士論文の CD-ROM 出版を考えています。 バイオテクノロジーとしては特に医学関係のものを掘り起こせばと考えています。 臨床医学関係の博士論文の本文を自由に公開している大学がありましたらお知らせください。(この項はさらに次号につづきます。)

* 3 今まで、SABS はその事務所の場所ははっきりしていましたが、何処で会議をしているかはっきりしませんでした。 2008 年 4 月から毎月第 4 水曜日午後 1 時から 5 時までを定例の会合を行うことにしようと思っています。 しばらくは沙龙的に運営しますので、

上記の時間中好きな時間にやってきて、好きな議論をして、記録を残し、好きな時間に帰るといったやり方になると思います。 それでも何か中心課題は必要なので、バイオテクノロジー関係の規格の見直し、新しい規格の設定、などが中心の課題になります。 さらに、これを拡張して電子会議が出来ればそれに越したことはありません。 場所は渋谷、東急ハンズうらの八雲クラブを想定していますが、予約が出来ましたら、改めて番地、地図などを配信する予定で居ます。 会員も会員でない人も自由に参加できる ASTM のような形態を

想定しているのですが、、、

- * 4 2008 年度には社員の皆様方の担当範囲を決めたいと思っています。と先号で予告しましたが、まだ決まりません。中谷さんのサプリメントだけは決まっているようです。上記の* 3の活動と関係します。

2) e—Library

先号でデジタルライブラリーのことをお尋ねしましたが、横浜市大の川崎准教授より教えていただきました。その後、調査の結果では矢張り日本はこの領域では遅れていることが次第に分かってきました。制度は同様なのですが基本になる考え方の点でことなっているのです。青空文庫のような積極的な活動がある割には、学問的な領域ではもう一頑張りが必要です。

上記* 2の論文の話とも関係します。

奥山 典生

東京都立大学名誉教授

(株) プロテイン テクノス インスティテュート

t&f 045-981-9455

E-mail ① protein-tech-inst@g01.itscom.net

② OkuyamaTsu99@aol.com
